

教育と盆栽

東京女高師教授 竹島茂郎

私が此の題目のもとに述べやうと思ふことは、幼児などの教育の方便物として、活物の盆栽が、死物の積木だとか豆細工だとか云ふ様なものよりも、大切であるとか、盆栽類をいぢらせることが、教育上甚だ効果の多いものであると云ふ様なことを、申す積りではないのであつて、今日の所謂「教育」なるものは我等の見るところでは、何だか盆栽の作り方と類似の點があるやうに思はれてならぬから、之を率直に批評して見やうと思つて、此の題目を選んだ次第であります。

「大人らしき子供」！、之は私の耳に異様のひびきを與へます。すなほに伸びやうとする芽を、摘んでは無暗に横枝を出させ、眞直に立たうとする幹に、針金をまきつけては無暗に曲折させて、ソリヤ乾いたから水をやらねばならぬ、ソリヤ陰になつたから日にあてねばならぬとて、朝から晩まで世話のやきづめであるのが、抑々盆栽の作り方であるが、そん

なにして世話をやいて、而して出来あがつたものは何であるかと云へば、曲りくねつた變てこな、大人らしい子供にすぎないのであります。私は今日の所謂教育なるものは、丁度此の盆栽仕立と同様な仕立方をして、人間を丸で盆栽にして、さうして其の盆栽の曲りくねつたのが氣に入つたとて喜んで、盆栽の趣味は我國獨特だと教場でまで話をしながら、悦に入つて居るのは何と云ふことであらうかと、嘆息せずには居られぬのであります。

古語に「養ふ所のものは、用ふる所のものにあらず、用ふる所のものは、養ふ所のものにあらず」と申すことがありますが、誠に其の通りであつて、曲りくねつた盆栽は、いつも人の世話を要求して居て、何等爲になることをしない間に、獨りで育つて居る深山の木は、續々棟梁の材となるのであります。

子供等を遠足につれて行つて、例へば多摩川原だとか、逗子の海岸だとか云ふ様な、廣々とした所へ

放つと、彼等は嬉々として喜び勇んで、色々の遊びごとに餘念もなく、終日小言一つ云ふ必用のないのを見るべき、大なる自然は、如何に巧に人の子を遊ばせることよと、今更の如く驚嘆するのであります。彼の世界に多くある例の様に、さうしてはいかぬ、かうしてはならぬと、色々指圖をしたり、小言を云つたりして居るのは、小さき人間の了見から、自然に育つべき木を植えやうとするのであつて、一度植木鉢に植ゑ付けたなら、世話を焼かすにはすまないものである、併し世話を焼いたとて、其の結果はどこまでも大人らしき子供を作つて行くに過ぎないことに氣付かぬとは、何たるあさましい事であらう。

逗子の海岸だとか、多摩河原だとか云ふ所へつれて行つて、世話を焼く必要のないのは、夫は人の手から自然の御手に託したからである、自然は實に黙々の間に、偉大なる手を以て、徹底したお世話を下さるのである、夫故今かりに狭い庭などで、子供を遊ばせる様な場合に、我々が色々の世話をやかねばならぬと云ふのは、既に左様な狭い場所へ、子供を置かねばならぬことから起る、餘義ない羽目におちたのであることを觀念して、せめて心だけでも廣く保持

して、つまらない小言を餘り云はぬやうに致したいのであります。

親と云ふものは、誠に勝手なものであつて、機嫌のよいときには、少々わるいことをしても、ヨシ／＼黙認して極めて寛大であるかと思ふと、氣分のわるいときには、左程でもないことまで、やかましく怒鳴りたて、子供を萎縮せしむる様なことをして、平氣ですまして居ることすら、決して珍らしくないのであるが、斯様なことを繰り返かへすと、敏感なる子供は、ぢきにお天氣見が上手になつて、他人の顔色を見て、行を二つにすると云ふ様なことを、平氣でやるやうになるのであります、而して之が我等の最も恐るゝところであり、夫故誰かの二枚舌を云々する前に、先づ教育者が、此のお天氣見の人を作らぬ様に盡力することが、最も必要であると思ふのであります、我が同朋の中には、小才のきく利口さうな人は決して少くはないのであるが、其の智には及ぶべく其の愚には及ぶべからず」と云ふ其の愚人、自ら斯うと信じたことは、他人が何と云はうとも、屈せず曲げぬと云ふ様な信念の強固な愚人は甚だ少いのであります、而して我等は億萬の利口な人

よりも、一人の愚人をほしいものであります。

話は少し前にもどりますが、先に述べた「養ふところのものは、用ふるところのものにあらず云々」の、養ふと云ふのは、人が養ふのであるが、人の養ふことは、甚だ徹底せぬのであります、夫故人が其の手をひくことは、夫丈自然の御手に委だねると云ふことになるのであるから、少しでも手をひいた方が、寧ろ其の成績があがると申すべきであります、例へば盆栽になつて居る木を、鉢からおろして大地に植ゑたなら、直ちに手がかゝらぬやうになつて、次第に成長をつゞけ、遂には神木としてあがめらるゝまでに、立派な樹木ともなることが出来るのであります。

彼の有名なジョージワシントン！、亞米利加の獨立を企圖して見事に其の目的を貫徹した彼のワシントンの幼時、父から貰つた斧で以て、父の大切に居た櫻の木を切つて、父から「誰が切つたかお前が知つて居るか」と問はれて、「おとうさん私が切つた」とはつきり答へたところ、父は「オ、よく云ふて呉れた、わしはお前の其の正直な心を見たからには、百本の櫻の木が切られてもをしくはない」と、心から

歡んで、可愛いワシントンを抱きしめて、頗ずりしたと云ふ唯一つの話が傳へられて居るが、私に於ては此の一つの話でもはや澤山であると思ふ。世間にはありふれた多くの父に於ては、切られた櫻の木を見て、又餓鬼が切りやがつたと推量して、憤怒の焰を胸に燃えたゞせて、言葉も荒々しく「チヨツと来い、貴様が又之を切りやがつたなあ」と、鐵拳が二三回も舞ふことでありませう、嗚呼斯くては櫻の木よりもより以上貴い子供の心の芽は、無慘にも切りさいなまれてしまふのであります、然るをワシントンの父は、まさかに！、ワシントンが、斯様な惡戯イタズラを、よもやと、云ふ心持であればこそ、「誰が切つたかお前が知つて居るか」との間!!何とやさしい其の間ひ方！。ワシントンの父の眼の中には、いつもに變らぬ慈悲の光が、眞珠の様に輝いて居たことでありませう、而して父の間に應じて「おとうさんわしが切つた」と、臆面もなくはつきり答へたワシントンの眼は、恐らく朗らかにあいて居て、またゞき一つせず父の顔を見まもつて居たことでありませう。さうして此の不時の出來事から、父と子との心と體とが、いつもよりより以上しつかりと癒合したのを、そば

で見て居た櫻の木は、切られがひがあつたとて、感謝して居たことでありませう、何と美しい事ではありませぬか、ワシントンの偉大なる人格は即ち父の人格であり、父の偉大なる人格は即ちワシントンの人格であります、二にして、一、一にして二に外ならないのは此の出来事によつて充分に證明せられて居ます。

私が通勤の途中、毎々母親が怒の焰を燃えたゞせて、子供の爲と云ふよりも、自己の憤懣をはらさんどて、怒號して居るのを見ることであるが、其の度に、いつも伸々と生ひ立つべき子供の可愛い心の芽が、如何に無慘にも切りさいなまれて居ることかと、悲哀の極時々仲裁にはいらうかと決心することもあり、**「江戸の敵長崎」**と申すことがありますが、自分が幼少の時切りさいなまれて、曲りくねつた心を掟木として、眞直に生ひ立つべき子供の身心が、盆栽に適せぬとてしきりに手入れをする積りでありませうが、斯様にして我が盆栽國は代々盆栽ばかりを作つて居るから、一家の中でも一國の中でも、排他的精神が漲ぎつて居るのであります、敢て支那や亞米利加ばかりが排日ではありませぬ。

立ちむかふ人の心は鏡なり

おのが貌をうつしてや見ん

鏡にうつる自分の影がわるいどて怒つた所で益々影が見にくくなるばかりでありませう。どうかすなほな笑顔を作ること心を用ひようではありませぬか。

○

砂場で餘念なく遊んで居る子の後頭部に強い夏の日が直射しては居ませんか。

暑い日の通園の往復、子供の頭は堅い厚い帽子で蒸れては居ませんか。

保育室の花瓶の花がしなびて、水がくさつては居ませんか。